

# 日本写真学会 第6回天体写真技術研究会

## テーマ『気流の影響を克服して発展中の惑星撮影技術』

昨年6月の第5回から少し間が空きましたが、以下のように第6回天体写真研究会を開催します。天体写真研究会は、前回までは、デジカメなどの画像機器の内部処理についての話を中心に、講演と討議を行うスタイルで行ってきましたが、今後は天体写真の最先端のトピックス的な技術に取り組んでおられる方々に講演をお願いし、それを踏まえて参加者全員で討議や情報交換を行う形で行います。

今回は『気流の影響を克服して発展中の惑星撮影技術』というテーマで、補償光学やスタック処理を取り上げ、下記のように開催いたします。関心ある方にはぜひご参加いただきたく、お待ちしております。

なお、**研究会は写真学会会員限定で、定員40名**としましたので、参加希望の方はお早めにお申し込み下さい。また、これを機会に、新規入会される方も歓迎します。

【開催日時】2018年7月7日(土曜日) 13:30~17:00 (13:00 受付開始)

【開催会場】(株)ケンコー・トキナーサービスショップ

〒164-8616 東京都中野区中野 5-68-10 KT 中野ビル 4F セミナールーム

【交通】

■電車: JR 中央線/東京メトロ東西線 中野駅北口 徒歩7分

■アクセス・地図: <http://www.kenko-tokina.co.jp/service-shop/>

【プログラム】

講演1:『天文学用補償光学の概要』 13:30~14:10 の予定

地上から天体観測を行うと大気ゆらぎにより像が乱れてしまいます。補償光学という方法を用いることで、この乱れを補正して望遠鏡本来の解像度を発揮することができます。ここでは導入として天文学用補償光学を概観します。まず大気ゆらぎの性質や測定方法について説明し、補償光学の基本的な原理と装置構成に関して解説します。それからすばる望遠鏡や TMT 望遠鏡と補償光学について紹介します。

講師: 大屋 真(国立天文台)

講演2:『惑星モニター観測用補償光学装置の開発』 14:10~14:50 の予定

地上からの天体観測では大気ゆらぎにより天体像が乱れてボケてしまいます。岡山理科大学では、惑星のモニター観測のために、大気ゆらぎをリアルタイムで補正して天体像の分解能を改善する大気ゆらぎ補償光学装置を開発しています。講演では、この惑星モニター観測用補償光学装置の目的と概要、惑星の表面模様を利用した波面測定方法、本装置における多層共役補償光学の原理と概要、開発の進捗について紹介します。

講師: 渡邊 誠(岡山理科大学)

講演3:『アマチュアによる惑星撮像の現状』 15:20~16:00 の予定

デジタル撮像技術の向上により、銀塩時代に天文台で撮影された写真を上回る画像が、アマチュアの使用する望遠鏡で得られています。惑星撮像も同様で、高感度・低ノイズのイメージセンサーが市場に出回るようになり、銀塩時代には得られなかった高解像な画像を、得られるようになりました。今回、その技術の基本となる動画撮影、画質の自動判別及びスタック処理、画像復元技術について、惑星撮像の手順を追いながらご紹介していきたいと思っております。

講師: 山崎 明宏(月惑星研究会/東大和天文同好会)

全員での討論:『惑星撮影技術の今後の課題と見通し』 16:00~17:00 の予定

上記講演の話をもとに、地上からの惑星撮影が更に発展するために必要な課題と、その技術見通しについて、参加者全員で質疑や情報交換を行いたいと思っています。

【参加資格と参加費】写真学会個人会員に限らせていただきます……参加費は無料です。

■参加資格:個人会員(一般、学生)に限る。開催当日までに入会手続きを前提とした参加申込も可能です。詳しくは、学会 Web サイトにて。

⇒入会案内: <http://spstj.org/member/annai.html>

【定員】40名(参加される方は必ず事前に日本写真学会ホームページから申込をお願いします)

<http://www.spstj.org/>

※定員になり次第締め切りますのでお早めにお申込下さい。

【申込締切】2018年6月29日(金) 日本写真学会ホームページよりお申し込みください。

※定員を超えた場合はお断りする可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

天体写真技術研究会:

主査: 塩田和生(天体写真家/元富士フイルム)

委員: 小林裕幸(日本写真学会会長/元千葉大学)、蒔田剛(キャン)、山野泰照(ニコ)、矢口博久(千葉大)

上坂浩光((有)ライブ)、田島俊之(国立天文台)、水口 淳(元ソニー)

事務局: 山岸治(日本写真学会)